



香川大学医学部附属病院
専門研修プログラム

SPECIALIST

2026

香川大学で Specialistに なろう!!

新しい専門医制度の枠組み

初期臨床研修(2年)修了後は、まず基本領域専門医の取得を目指します。

香川大学では全17領域の魅力的なプログラムを整備し、優れた専門医育成に努めます。特に内科と外科は診療科が連携して一本化したプログラムを準備しています。

初期臨床研修 2年間

専門研修 3~4年間

基本領域専門医 17領域

内科 小児科 皮膚科 精神科 外科 整形外科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 脳神経外科 放射線科 麻酔科 病理 臨床検査 救急科 形成外科 リハビリ 総合診療

灰色は専門研修プログラムのない領域

Subspecialty領域専門医 23領域

CONTENTS

内分泌代謝内科	3	心臓血管外科	14
血液内科	3	消化器外科	14
膠原病・リウマチ内科	4	呼吸器外科	15
呼吸器内科	4	乳腺内分泌外科	15
循環器内科	5	小児外科	16
腎臓内科	5	整形外科	17
抗加齢血管内科	6	形成外科・美容外科	18
消化器内科	6	泌尿器・副腎・腎移植外科	19
脳神経内科	7	脳神経外科	20
腫瘍内科	7	眼科	21
総合診療科	8	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	22
感染症教育センター	8	放射線診断科	23
皮膚科	9	放射線治療科	24
精神科神経科	10	麻酔・ペインクリニック科	25
小児科	11	病理診断科	26
周産期科女性診療科	12	救命救急センター	27

内科 プログラム

目的と特徴

- 専門医として内科領域全般にわたる最新かつ高度な診療能力を修得
⇒ 内科系の全11診療科が協力し、充実した専門研修を実現しています。
- 全人的な内科診療や地域医療に貢献できる内科医を育成
⇒ 香川県下全域にまたがる41の豊富な連携施設で研修できます。
- 自由度の高い2つのコース(①内科基本コース、②Subspecialty連動コース)から選択
⇒ Subspecialty領域の専門医もスムーズに取得できます。
- 医師キャリア支援センターが資格取得をサポート
⇒ 経験症例数や講習会受講など一人ひとりの研修をマネジメントします。

プログラムについて

3年間の専門研修では、主担当医として「研修手帳」の70疾患群、200症例以上を目標に経験します。本プログラムは豊富な連携施設や症例数、指導医数を有しており、修了要件を100%充足できます。基幹施設では最新の知識・技能を修得し、稀少疾患や研究発表を経験します。連携施設ではcommon diseaseや地域医療を経験します。



①内科基本コース

高度なGeneralistを目指す方、将来のSubspecialtyが未定な場合に選択します。内科領域を偏りなく学ぶことを目的としており、原則として2年間は基幹施設ですべての内科系診療科をローテーションします。残りの1年間は連携施設で地域医療を経験します。

②Subspecialty連動コース(合計2年のSubspecialty領域連動研修が可能)

内科領域全般のみならず、将来希望するSubspecialty領域に重点をおいた研修を行い、Subspecialty専門医をスムーズに取得することができます。1年間は基幹施設で内科系診療科をローテーションし、残りの2年間でSubspecialty領域の専門研修を連動して行います(連携施設2年コースor連携施設1年コース)。

連携施設一覧

- | | | |
|--------------|----------------------|---------------------------|
| 1 香川県立中央病院 | 16 坂出聖マルチン病院 | 31 兵庫県立はりま姫路総合医療センター[兵庫県] |
| 2 高松赤十字病院 | 17 滝宮総合病院 | 32 神戸市立医療センター中央市民病院[兵庫県] |
| 3 高松医療センター | 18 宇多津病院 | 33 兵庫県立尼崎総合医療センター[兵庫県] |
| 4 香川県済生会病院 | 19 三豊総合病院 | 34 大阪急性期・総合医療センター[大阪府] |
| 5 屋島総合病院 | 20 高松市民病院塩江分院 | 35 道後温泉病院[愛媛県] |
| 6 りつりん病院 | 21 三豊市立みとよ市民病院 | 36 徳島赤十字病院[徳島県] |
| 7 KKR高松病院 | 22 四国こどもとおとなの医療センター | 37 高知医療センター[高知県] |
| 8 キナシ大林病院 | 23 倉敷中央病院[岡山県] | 38 関西医科大学附属病院[大阪府] |
| 9 高松平和病院 | 24 川崎医科大学附属病院[岡山県] | 39 山梨県立中央病院[山梨県] |
| 10 さぬき市民病院 | 25 国立循環器病研究センター[大阪府] | 40 HITO病院[愛媛県] |
| 11 小豆島中央病院 | 26 大阪ろうさい病院[大阪府] | 41 大阪医科薬科大学病院[大阪府] |
| 12 香川県立白鳥病院 | 27 住友病院[大阪府] | 42 松山赤十字病院[愛媛県] |
| 13 香川労災病院 | 28 りんくう総合医療センター[大阪府] | 43 大阪医療センター[大阪府] |
| 14 坂出市立病院 | 29 市立東大阪医療センター[大阪府] | 44 静岡がんセンター[静岡県] |
| 15 総合病院 回生病院 | 30 大阪赤十字病院[大阪府] | |

内分泌代謝内科

内分泌代謝を極める

● 診療科の紹介 ●

内分泌代謝内科は平成26年診療科再編に伴い設置された診療科であり、糖尿病および内分泌疾患の診療を行っています。糖尿病は、香川県において地域特有の疾患として患者数が急増しています。当科では、多職種連携による糖尿病重症化予防を目標に掲げ、チーム医療を強化し、チームで様々な活動に取り組んでいます。また内分泌疾患に関しては、四国有数の症例数を誇り、研修目標に掲げられた疾患群は言うに及ばず、一般病院ではなかなかお目にかかれないような希少疾患を経験できます。さらに当科の使命として、“生活習慣病への希少糖の応用”、“糖尿病患者の運動機能評価”、“ITを用いた遠隔糖尿病診療”、“未来をみすえた生活習慣病教育”などのプロジェクトを遂行しています。是非みなさんも一緒に、研修・診療・研究を行いましょう。

● 研修に関する行事 ●

内分泌代謝臨床研究に関するカンファレンス、内分泌代謝学に関する抄読会、各種内分泌負荷試験講習会、甲状腺エコーハンズオンセミナー、糖尿病治療薬講習会、受け持ち患者のカンファレンス、下垂体カンファレンス(脳神経外科と、2ヶ月に1度)など

● 取得できる専門医資格および技能 ●

当科は日本糖尿病学会・日本内分泌学会・日本動脈硬化学会・日本内科学会の認定教育施設となっており、それぞれの専門医の習得が可能となっています。新専門医制度にも対応しています。大学院に進むこともできます。



血液内科

先端的な分子・細胞・免疫療法を駆使して血液疾患の患者さんを救いましょう!

● 診療科の紹介 ●

血液内科では、赤血球・凝固系の疾患とともに、何といっても白血病や悪性リンパ腫などの造血器腫瘍の診断と治療に全力を注ぎます。造血器腫瘍には化学療法や放射線療法が効きやすく、また造血器腫瘍に特有の治療として造血幹細胞移植があります。さらに近年は分子標的療法、免疫療法が急速に進展しています。血液内科は、こうしたさまざまな内科的がん治療をダイナミックに組み合わせて造血器腫瘍の治療を目指す、がん薬物療法のエッセンスが詰まった科です。また、診断に分子生物学的手法が多く取り入れられ、研究との距離が近いのも特徴です。

コンパクトな県内に集まった香川大学血液内科の関連病院は良好なチームワークで強く結ばれています。しかも教育熱心で温かい人柄の先生がそろっています。このように整った環境で血液内科の専門研修を行い、ともに血液疾患の患者さんに笑顔を届けましょう。

● 研修に関する行事 ●

毎週火曜に血液・免疫・呼吸器内科全体のカンファレンス、多職種の移植カンファレンス、水曜夕方に症例検討会・勉強会、金曜夕方に検鏡会、月曜・金曜朝にショートミーティング、さらに月・木・金曜夕方にサインアウトミーティングを行って、毎日情報を共有するとともに血液診療の力を錬磨しています。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

●日本血液学会認定 血液専門医 ●日本造血・免疫細胞療学会認定 造血細胞移植認定医 ●日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ●日本臨床腫瘍学会認定 がん薬物療法専門医 ●日本輸血・細胞治療学会認定医



膠原病・リウマチ内科

難しいと思われる疾患をさくっと診る内科です 一緒に成功体験を実感しましょう

● 診療科の紹介 ●

膠原病・リウマチ内科はいわゆる膠原病を中心としたいわゆる難病という疾患を中心に診療する内科です。香川県内の膠原病・リウマチ内科専門研修プログラムは香川大学医学部附属病院膠原病・リウマチ内科を基幹施設とするプログラムただ一つだけです。県内の膠原病・リウマチ性疾患を診療する施設は全て本プログラムの連携施設になっています。高松赤十字病院・香川県立中央病院・さぬき市民病院・国家公務員共済高松病院・宇多津病院・キナシ大林病院・香川労災病院など全て連携施設となっていますのでそれぞれの施設での内科専門医との連携した専門研修が可能です。全ての施設に指導医が配置されているので異同などで研修に困ることはありません。また県内のみならず愛媛県・大阪府・東京都・岡山県などの施設との連携も行っています。膠原病・リウマチ内科専門研修プログラムはリウマチ版J-OSLERを用いていますので内科専門医研修プログラムとの移行もスムーズです。

膠原病・リウマチ内科専門医は特殊なスキルを備えた極めて内科らしい専門医です。診療の最初の目標、つまり診断の為に全身のあらゆるランドマークを探索する能力は貴賓に値します。問診、視診、触診、聴診に加えてさまざまな検査を用いて全身を捜査し診断という目標に進みます。最初の目標にたどり着いたら次の目標の設定とそこへたどり着くためのルートを探します。これにはさらに幅広い知識と思考そして人間力が必要です。患者さんと一緒にルートを進んで行くためには伝える力が必要です。膠原病・リウマチ内科専門医は患者さんにとって簡単には理解し難い診断や治療について、良質なShared Decision Making (SDM) を実践しなければなりません。そのためには患者さん一人ひとりのバックグラウンドを把握し、様々な手段を駆使して設定した目標とそこに至るルートを共有できるスキルが求められる専門医です。これらのスキルを培うために先輩や指導医の役割は重要ですが、極めて優秀な講師陣を有していると自負しています。しかしながら我々にとって一番重要な先生は何年経ても患者さんです。本プログラムでは目の前を患者さんが通り過ぎていくような体制ではなく、じっくりと向き合えるように配慮しています。現在専攻医は男性4名、女性4名で、ダイバーシティやワークライフバランスも重要視しています。プログラムの基幹施設である香川大学医学部附属病院膠原病・リウマチ内科に通院中の患者さんは2,573人、入院患者さんは18床で186人(2022年度)です。専攻医に対して、総合内科専門医・指導医を併せ持つ膠原病・リウマチ内科指導医5名、膠原病・リウマチ内科専門医5名が複数名で指導し、前述の特殊技能に加えて人間力をもつ臨床医の育成を目標としています。専門医・指導医の取得は勿論ですが、国内・国際学会にも演題発表してもらっています。本年の国際学会では欧州リウマチ学会(ミラノ)と米国リウマチ学会(サンディエゴ)に参加して貰いました。さらに希望者には研究を進展させて学位取得の機会を持っていただきます。また膠原病・リウマチ内科診療の進歩へ貢献するため、多施設共同ならびに独自の臨床研究や新規治療薬の開発治験(2017年~2022年度末で合計53件と中四国でもトップクラスです)を担当し、厚生労働省の研究班(5つの研究班に所属しています)にも参画してもらって日本およびグローバルの新たなエビデンス作りも体験してもらいます。研修医・医学生への教育への参画を通して指導者としての資質を獲得してもらいます。私たちは実臨床のそれぞれの場面で成功体験、学会発表や医学への貢献などの成功体験、さらに自身の成長を実感できる成功体験を実感してもらえるような研修プログラムに取り組んでいます。是非とも一緒に体験しましょう。

最後に、あなたが膠原病・リウマチ内科に少しでも興味を持っておられたら気軽に話にお越しください。

また県外の膠原病・リウマチ内科を有する施設に連絡したり訪問したりする機会があれば、是非とも「香川大学の膠原病・リウマチ内科って知ってますか?」と尋ねてみてください。きっと知らない人はおられないと思います(＾▽＾)

● 研修に関する行事 ●

- ◎血液・免疫・呼吸器内科学講座全体でのカンファレンス: 横断的な症例検討です。
- ◎新患カンファレンス: 診断と治療のためのアプローチを共有します。
- ◎学会: 日本リウマチ学会、日本内科学会、日本臨床免疫学会、欧州リウマチ学会、米国リウマチ学会などに研究業績を必ず発表します。対面での反省会(打ち上げ会)も必ずあります。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

内科専門医および膠原病・リウマチ内科専門医の同時取得が可能です。



呼吸器内科

「急性から慢性疾患まで、良性から悪性疾患まで」幅広く診て治す

● 診療科の紹介 ●

呼吸器内科は多彩な疾患を担当しています。細菌性肺炎のような感染症、過敏性肺炎のようなアレルギー性疾患、間質性肺炎のようなびまん性肺疾患、肺癌のような悪性腫瘍など幅広く、気胸や呼吸不全のように急な対処を要する状態も含まれます。自覚症状を考察し、身体所見を詳細にとり、血液検査を適切に解釈し、画像所見を正しく読影することにより患者さんの病態を包括的に捉えることを訓練します。エコーガイド下を含む気管支鏡検査はマスターするべき手技です。初期および後期研修中には呼吸器領域のみならず、内科一般診療において全身を診る力をつけていくことも重要です。そこで大学病院と関連病院の強い連携の下、優れた臨床医となる手助けをしたいと考えています。また将来的に大学院で研究に従事することや、国内外へ留学することなど、希望に応じた進路を提案していきます。

● 研修に関する行事 ●

カンファレンスとしては、血液・免疫・呼吸器内科学の枠組みでの多角的視点に立ったモーニングカンファレンス(火曜日)、当診療科内での専門的なカンファレンス(火曜日)、呼吸器外科・放射線診断科・放射線治療科とともにCancer Boardを兼ねた合同カンファレンス(月曜日)があり、症例によっては病理診断科・病理部も参加します。気管支鏡(火曜日)では、毎週数例を実施していただきますので半年もすればかなりの実力が身に付きます。最近のトピックスの論文を読み込む抄読会(水曜日)は、呼吸器疾患の理解を深めることに役立つでしょう。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

総合内科専門医、呼吸器専門医、および気管支鏡専門医の取得が可能です。希望にあわせてがん薬物療法専門医や感染症専門医なども取得可能です。



循環器内科

急性期から慢性期までの心臓・血管疾患に対応した研修を行っています。

● 診療科の紹介 ●

大学病院の後期研修医は、心臓血管センター(30床)、CCU(6床)で上級医とチームで診療を行います。研修は、血管内治療、不整脈、心不全、肺高血圧、超音波等のサブスペシャリティをローテートし、循環器専門医の習得のための研修も行います。さらに大学病院と関連病院との連携で急性期から慢性期までの循環器疾患に対する臨床能力を習得します。循環器内科は心臓、血管を診る唯一の内科であり、全身の循環管理の専門家でもあります。循環器専門医、サブスペシャリティの専門医、循環器に強い総合内科医を目指す先生を歓迎いたします。



● 研修に関する行事 ●

入院患者カンファレンス、心カテカンファレンス、心臓外科内科合同カンファレンス、モーニングカンファレンス、教授回診、モーニングレクチャー

● 取得できる専門医資格および技能 ●

当院は、循環器病各専門学会の認定教育施設であり、各専門研修が行えます。虚血性心疾患には冠動脈造影検査を実施し、熟練医と共に経皮的冠動脈インターベンション術を習得します。不整脈疾患には電気生理学的検査、カテーテルアブレーション、ペースメーカーや植込み型除細動器の植込みから管理まで行います。心不全には急性心不全患者のCCUでの全身管理、特定心筋症の各種画像診断を用いた病態把握、薬物・非薬物療法を行います。さらにハートチームで弁膜症に対するカテーテル治療、植込み型補助人工心臓の管理を行います。大学病院は専門研修をしつつ大学院博士課程に進む事も可能です。研究は、心不全、不整脈、動脈硬化等をテーマに多くの臨床研究、基礎研究を行っています。一方、関連病院での研修も可能です。また、生活習慣病の管理や他科からの循環器疾患のコンサルトへの対応など多くの経験が積めます。

腎臓内科

検尿異常から腎移植までの幅広い腎臓病に対応した後期研修を行っています。

● 診療科の紹介 ●

慢性腎炎・ネフローゼ症候群、急性腎障害(AKI)、高血圧・体液異常、末期腎不全(血液透析、腹膜透析、アフェレシス)、腎移植などの腎臓専門病態から慢性腎臓病(CKD)患者の感染症や水・電解質・輸液療法を含むcommon diseaseまで経験可能です。

病床は11床で、年間50件の腎生検、年間40件の腎代替療法導入(うち腹膜透析9例)、年間60件の内シャント造設術を行っています。一つの病棟で水・電解質異常や腎生検からアクセス血管外科、腹膜透析や腎移植まで腎臓に関するすべての臨床研修を受けることが可能な全国でも数少ないグループです。

● 研修に関する行事 ●

教授回診、腎透析カンファレンス、腎組織カンファレンス、血管吻合ウエットラボ、研修医勉強会、学会発表、初診外来、院内コンサルトチーム

● 取得できる専門医資格および技能 ●

当院は日本腎臓学会認定研修施設・日本透析医学会認定施設であり、新内科専門医・腎臓専門医・透析専門医に加えて、高血圧専門医、移植認定医、アフェレシス学会専門医などの各専門医取得を目標とした後期研修を行っています。血管吻合手技や多くの中心静脈穿刺手技を行います。



抗加齢血管内科

末梢血管障害から肺高血圧症まで幅広い血管病についての研修を行っています。

● 診療科の紹介 ●

抗加齢血管内科では循環器内科と一体となって末梢血管疾患、頸動脈硬化疾患、そして、肺高血圧症などの診断・治療を心臓血管センター内にて行っています。また、救命救急センターと協力して、心筋梗塞や脳血管障害の急性期治療も実施しています。

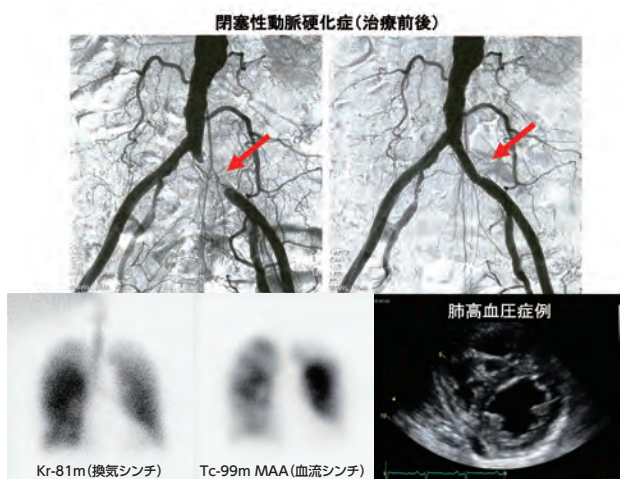
● 研修に関する行事 ●

末梢血管障害などの動脈硬化性疾患と肺高血圧症についての研修を実施しています。循環器疾患の研修も可能です。

臨床研修・臨床研究としては超音波検査やシンチグラム、CT、MRIなどを用いた頸動脈硬化症、深部静脈血栓症、大動脈疾患、肺塞栓症、虚血性脳血管障害の診断、さらに進歩著しい血管内治療や肺高血圧症に関するものを行います。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

専門医研修では、日本内科学会総合内科専門医、循環器専門医、超音波専門医、心血管カテーテル治療学会認定医などの取得のための指導を行っています。また、基礎研究では、動脈硬化不安定プラークに多く発現する分子を標的とした診断・治療の開発に取り組んでいます。



消化器内科

消化管・肝胆膵疾患をカバーする、非常に需要の多い診療科です。

● 診療科の紹介 ●

消化器内科は腹痛、便秘異常などを主訴とする多数の“common disease”を扱う極めて需要の多い診療科です。具体的な疾患としては日本の癌死亡の上位を占める胃癌、肝癌、大腸癌、膵癌などがあり、抗癌剤や分子標的治療薬による進行癌の治療や緩和医療の実践など消化器内科の重要性が年々増えています。加えて、早期の消化管癌（食道癌、胃癌、大腸癌など）や肝細胞癌に対する内視鏡的治療や経皮的局所治療などの進歩により従来は外科治療の守備範囲であった疾患が消化器内科医によりどんどん治療される時代になってきています。

このように広範な消化器疾患をあつかう当科は、高齢化の進む日本の社会において今後ますます需要が増加することが予想される重要な臨床分野です。当科はこのような社会のニーズに応えるべく、当該分野の臨床、医学研究ならびに地域医療の発展に日々励んでおります。また、大学附属医院および関連医療機関において数多くの人材を育成、県内の基幹病院へ派遣することで、包括的なチーム医療を行っています。

● 研修に関する行事 ●

		月	火	水	木	金
肝 臓	午前	腹部エコー	腹部エコー	腹部エコー	回診	腹部エコー
	午後	カンファレンス	回診	肝臓治療(RFA)	肝臓治療(IVR)	回診
消化管	午前	内視鏡検査	内視鏡検査	ESD	回診	ESD
	午後	内視鏡治療	カンファレンス	ESD	ESD	ESD
胆 膵	午前	腹部エコー	カンファレンス	腹部エコー	回診	EUS
	午後	ERCP・EUS	ERCP・EUS	ERCP・EUS	ERCP・EUS	ERCP・EUS

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本内科学会認定医、専門医 ● 日本消化器病学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医 ● 日本肝臓学会専門医



脳神経内科

日々進歩する神経内科と一緒に学びませんか。

● 診療科の紹介 ●

みなさんは脳神経内科にどのようなイメージを持っていますか?「診断が面白い」「丁寧な診察」などポジティブな意見だけでなく、「難しい」「分かりづらい」「治療法がない」などネガティブな意見も聞こえてきそうな気がします。実際はそこまで難しいことは無く、治る病気も多いのですが、かくいう私も学生の頃はそのようなイメージを持っていました。私はお世辞にも勤勉な学生ではなく(浪人も留年もしています笑)、自分は神経内科に向いていないのではないかと、場違いではないかと思っていたこともありましたが、今では日々楽しく診療できています。それはきっと職場環境のおかげでもあり、脳神経内科という学問を系統立てて考えれば、決して難しすぎることはないからだと思います。私のように既存のイメージを打破して、脳神経内科と一緒に学びませんか?

香川大学脳神経内科にはここ数年間は毎年入局者がおり、若手主体で病棟業務に当たっています。若手のうちから豊富な症例を経験することができ、上級医の丁寧な指導が受けられる環境の中で、初期研修医は診察方法や手技の実践などの初歩的なことを学び、後期研修医は主治医として診断や検査、治療を自分で考える力を養える教育を行っています。女性医師や子育て中の医師も在籍しており、仕事と家庭を両立できる環境になっています。いつか皆さんと一緒に働ける日を心待ちにしています。

● 研修に関する行事 ●

- ◎回診: 月曜日午前(科長) ◎入院患者カンファレンス: 水曜日夕方
- ◎脳外科との合同カンファレンス: 月末の月曜日朝
- ◎抄読会: 月3回 ◎筋電図検査: 月曜日午前、金曜日午後

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 神経内科専門医 ●臨床神経生理(筋電図・神経伝導分野)専門医
- 認知症専門医 ●頭痛専門医



腫瘍内科

すべての固形と腫瘍に対する標準治療と、未承認新規薬剤の国際共同治験やがんゲノム診療や希少がん治療も含めた最先端のがん治療を幅広く経験できます。

● 診療科の紹介 ●

当科は2015年2月に新設され、同年4月より幅広いがん腫の集学的治療(手術・薬物療法・放射線治療など)を行うとともに香川県のがん診療連携、がん治療に係る医療機関等との連携及びその推進、がん予防・診療についての教育・研修及び啓発、支持療法、緩和ケアの推進と統括業務を行っております。また、消化器癌を中心に、原発不明がん、希少がん、軟部肉腫など多種多様ながん腫に対する標準治療や、新薬開発(治験)を含めた最先端の治療を行っています。さらに、2019年9月に四国の大学病院としては初のがんゲノム医療拠点病院の指定も受け、最適な治療薬をいち早く患者さんに提供するためのがんゲノム診療も開始しています。緩和ケアについても高レベルのチーム医療を実践しており日常業務の中で緩和医療についての研修も出来ます。後期研修では、高松赤十字病院をはじめとする香川県内の教育病院での研修の他、さらに進んで専門科修練を、国立がん研究センターや、神戸市立医療センター中央市民病院などが専門病院での研修も対応可能で、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医が指導に当たります。最先端のがん診療エキスパートを養成します。

● 研修に関する行事 ●

教授回診、多科合同がん診療ボード、緩和ケアチーム回診/カンファレンス、病棟・外来化学療法レクチャー/カンファレンス、がんゲノムエキスパートパネル

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 ●日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本緩和医療学会認定医・専門医 ●日本内科学会総合内科専門医
- 日本消化器病学会専門医 ●日本肝臓病学会専門医 ●日本老年病学会専門医
- 日本超音波医学会超音波専門医 ●日本肉腫学会専門医



総合診療科

Subspecialtyにも根ざした総合診療医を目指します。

● 診療科の紹介 ●

総合診療科は香川大学医学部附属病院(当院)の中で多くの専門診療科との連携を大切にしながら診療活動を行っています。外来診療では様々な症状を呈する未診断初診患者の診察、スクリーニングを行い、必要に応じて専門診療科への紹介を行っています。また専門診療科から一般診療の依頼を受けて診療する場合もあります。また不明熱など外来のみで解決できない場合は入院で診療を行うこともあります。当科では、臨床力があり全人的・包括的医療を行い、研究志向を持った総合診療医の養成を目標としています。幅広い疾患に対応し、全人的医療を行い、日々の診療から問題点を発見して研究を行う総合診療医の養成を目指しています。当院の使命は専門的な高度医療の実践ですが、当科では担当専門診療科が不明の疾患、専門診療科から一般診療が必要と考えられた患者の受け皿となり、大学病院の診療に貢献したいと考えています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

当科の総合診療専門研修プログラムは病院・診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために創設されました。専攻医は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する総合診療専門医になることで、以下の機能を果たすことを目指します。

- ① 地域を支える診療所や病院においては、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他職種等と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービス(在宅医療、緩和ケア、高齢者ケア等を含む)を包括的かつ柔軟に行う。
- ② 総合診療部門を有する病院においては、臓器別でない病棟診療(高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア等)と臓器別でない外来診療(救急や複数の健康問題をもつ患者への包括的ケア)を行う。

● 研修に関する行事 ●

初診外来、カンファレンス、病棟回診、検査(エコー、CT、内視鏡)、症例検討会、医局会、抄読会など

● 取得できる専門医資格および技能 ●

● 総合診療専門医



感染症教育センター

“感染症に強い”内科医を目指しませんか。

● 研修科の紹介 ●

当センターは、感染症分野の専門人材を安定的に輩出するとともに、香川県全体の感染症診療・感染対策・地域医療の向上を目的として2021年に設立されたセンターで、現在医師3名が在籍しております。他の医療機関からの医師の受け入れも随時行っており、現在3名の医師を受け入れております。院内の主な業務として、感染症コンサルト例への診療支援、血液培養陽性例のカルテチェック、抗菌薬適正使用支援などを行っております。新規症例は約50例/月*と豊富で、常に30例前後の症例を継続的にフォローしています。新規症例や経過に変化のある症例については、センター内でディスカッションを行い、主治医と連携をとり診療にあたっています。

また、2023年度から初期研修医の研修ローテーションが、2024年1月より学部生の医学実習Ⅱの受け入れが開始となり、今後も医学教育に一層力を入れていく予定です。下記の通り、ローテーションに条件が必要となりますが、ご興味のある方は是非一度、感染症診療を経験していただければと思います。

*2022年度4-9月累計患者数より算出

● 専門研修プログラムの特徴 ●

当センターは診療科として独立して存在しておりません。研修はローテーション中の診療科のお時間を割いて行う形式のため、研修を受ける際には該当診療科の許可が必要です。研修時間や内容については、各診療科のスケジュールに合わせて柔軟に対応いたします。研修に関するご希望がありましたら、どうぞ遠慮なくご相談ください。

● 研修に関する行事 ●

ASTカンファレンス、ICTラウンド/感染症ラウンド、感染症レジデントレクチャー(月1回)

● 取得できる専門医資格及び技能 ●

● 感染症診療スキルの向上 ● グラム染色

皮膚科

「皮膚は心の鏡、皮膚は内臓の鏡」をモットーに、診療、研究、教育に取り組んでいます。

● 診療科の紹介 ●

皮膚は人体最大の臓器です。皮膚科は、皮膚を舞台とした様々な疾患、すなわち感染、アレルギー、炎症、癌などを対象とする間口の広い診療科です。皮膚疾患の多くは、診断から治療を皮膚科で自己完結できるため、1つ1つの症例にじっくりと向き合えることが魅力です。また、皮膚は内臓や心の異常を症状として反映する、「内臓の鏡」、「心の鏡」でもあります。当科は、皮膚に潜む内臓や心の疾患にも注意を払い、全人的な診療を提供しています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

香川大学医学部、日本専門医機構が定める研修プログラムに則り、研修を行います。初期研修では、可能な限り皮膚科で研修し、現場の雰囲気や肌で感じてもらえれば幸いです。専門医研修では、当科に入局の上、外来や入院診療に従事します。ありふれた疾患のプライマリケアの他、市中病院では困難な最先端の検査、治療を行います。当科には、高度な専門資格を持った先輩医師がおり、困った時に迅速なアドバイスを得られます。研修期間での幅広く、困難な症例の経験は、その後の医師としての人生に必ずプラスになります。その他、当院形成外科(手術手技)、高松赤十字病院などの関連市中病院、地域枠での研修も可能ですので、ご相談ください。

● 研修に関する行事 ●

外来は月、火、木、金の午前です。午後は病棟業務または外勤です。水曜は手術日です。通常業務は17時15分に終了し、以後はフリーです。夜間の病院当直はなく、オンコール体制=宅直です。外勤は週1~2回で、地域の病院で外来業務を行います。毎週木曜には、教授回診、臨床・病理カンファレンスで、症例の治療方針や問題点について議論します。年2回の地方会のほか、内外での学会発表や論文作成の指導を行います。研究面では、大学院および大学院社会人枠で、基礎教室と連携し、学位取得、その後の留学までを手厚くサポートします。臨床研究も積極的に行っています。また、当プログラムには子育て中の医師も在籍しています。育児をしながらキャリアを形成できる体制を取っていますので、安心して入局してください。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

所定の研修(最短5年)の最終年度に、日本専門医機構認定皮膚科専門医試験を受験できます。その後、さらに高度な専門資格を取得することが可能です。



■ 組織カンファレンス



■ 手術風景

精神科神経科

ほとんど全ての精神科医療を体験することが可能です。

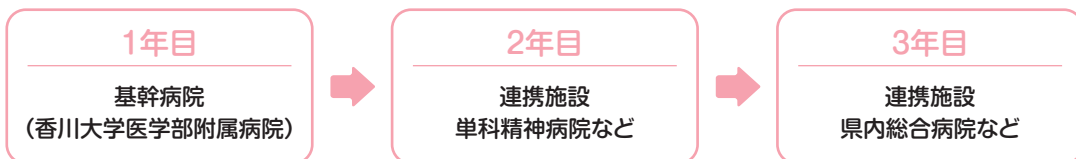
● 診療科の紹介 ●

香川大学医学部附属病院精神科神経科では、統合失調症や躁うつ病、神経症などの種々の精神疾患はもちろん、総合病院における精神科としてコンサルテーション・リエゾン精神医学や、認知症疾患医療センターとして認知症の診断、治療にあたるなど専門性の高い診療を行っています。専門研修制度においては、基幹病院として、専攻医の指導や精神科医療の充実に尽力していく、活気にあふれた医局です。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

本プログラムには14の連携施設があり、県内の主要な精神科病院が参加しています。四国こどもとおとなの医療センターには全国でも少ない児童精神科病棟があります。また西香川病院は認知症治療をメインとしているモデル的施設です。尚、松山市の牧病院も連携施設です。このように連携施設は多岐にわたっています。専攻医は希望に応じて研修先を柔軟に選択することができ、多くの症例を経験することができます。下記はローテーションの1例で、専攻医の様々なニーズに応じた研修を提案できます。

例



● 研修に関する行事 ●

外来診療では予診や往診などで経験を積みながら、外来主治医を担当するなど無理のないプログラムとなっています。病棟では入院主治医として指導医と協議しながら診療にあたります。

	月	火	水	木	金
午前	外来研修	外来研修	カンファレンス 病棟回診	外来研修	外来研修
午後	病棟診察 往診	病棟診察 往診	医局会 病棟診察、往診	病棟診察 往診	病棟診察 往診

● 取得できる専門医資格および技能 ●

本プログラムにおいては、日本精神神経学会専門医の取得が可能です。その他にも当科は多くの精神科関連領域における専門医研修施設に指定されており、さらに専門性を高めていくことができます。また、精神保健指定医資格の取得が可能です。



小児科

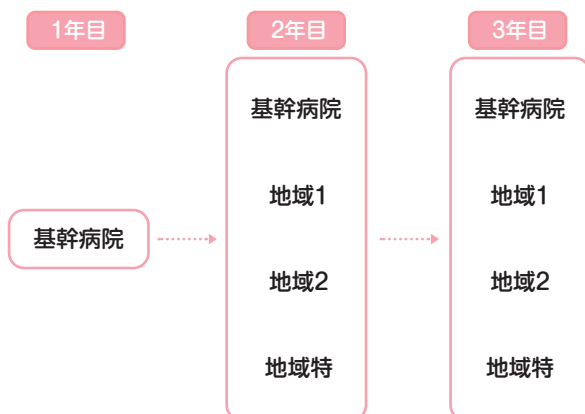
「楽しくなければ小児科ではない」と語れる、小児科医を育成します。

● 診療科の紹介 ●

小児科医は子どもたちの総合医です。「成熟する小児科医」として子どもと、家族と、仲間と共にその成長を喜び小児科医師育成を行うことを目標とします。このため地域医療と国際医療貢献の双方に視点を持つ、人間的に成熟した人材育成を心掛けます。そして将来の小児科専門医を取得後、各個人の専門分野を開拓することもサポートします。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修します。



① 基幹病院：香川大学医学部附属病院

② 地域 1：三豊総合病院、さぬき市民病院、小豆島中央病院、井下病院、白鳥病院

③ 地域 2：香川県立中央病院、坂出市立病院、香川県済生会病院、りつりん病院、かがわ総合リハビリテーション病院、松原病院、屋島総合病院、四国こどもとおとなの医療センター、高松赤十字病院

④ 地域 特：四国こどもとおとなの医療センター、岡山医療センター、東京都立小児総合医療センター

※ローテーションは左図を基本としますが、地域の医療機関の状況により、変更することがあります。
なお、基幹病院で3年間連続した研修を行うことはできません。

● 研修に関する行事 ●

	月	火	水	木	金	土日
8:30～9:00	カンファレンス	レクチャー	カンファレンス	抄読会	カンファレンス	当直 (担当時)
9:00～12:30	病棟/外来	病棟/外来	病棟/外来	病棟/外来	回診	
					病棟/外来	
13:30～17:15	病棟/外来	回診	病棟/外来	病棟/外来	病棟/外来	
		病棟/外来				
17:15～	当直 (担当時)					

● 取得できる専門医資格および技能 ●

● 小児科専門医

小児科に特化したサブスペシャリティ領域としては、小児神経専門医(日本小児神経学会)、小児循環器専門医(日本小児循環器病学会)、小児血液・がん専門医(日本小児血液がん学会)、周産期専門医(新生児)(日本周産期新生児医学会)の4領域があり、小児科専門医資格取得から、サブスペシャリティ領域の専門研修へと連続的な研修が可能となるように配慮します。



周産期科女性診療科

ここは“受胎から人生の終焉まで”に寄り添うところです。充実感・達成感は比類なし！

● 診療科の紹介 ●

周産期領域では地域における正常分娩から総合周産期母子医療センターで取り扱うハイリスク妊娠まで、婦人科腫瘍領域では良性腫瘍手術から集学的治療を要する悪性腫瘍まで広く診療を行っており、産婦人科専門研修として理想的な環境です。周産期部門は、西日本屈指のハイボリュームセンターですので豊富な症例を経験できるだけでなく、西日本では研修困難な鉗子分娩や骨盤位経陰分娩を積極的に行い、高度な分娩技術の習得が可能です。さらに、超音波専門医がおり、専門医の指導のもとで充実した産科および婦人科の研修が出来ます。婦人科腫瘍では、傍大動脈リンパ節郭清を含む婦人科悪性腫瘍手術の症例も多く、放射線治療部門との連携による手術・化学療法・放射線療法を含めた集学的治療も展開しています。手術療法は、患者さんに低侵襲とされる腹腔鏡手術も積極的に行っています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

女性医学に関するプライマリー疾患や不妊診療については、関連病院での研修を取り入れることで充実させています。産婦人科研修では、僻地医療が義務付けられており、小豆島中央病院およびさぬき市民病院研修がこれに相当します。ベテランの指導医のもとで、安心して離島やその他の地域における産科婦人科医療を実践する事が可能となっております。また研修に変化を持たせるために、希望により札幌市(札幌東豊病院)大阪市(国立循環器病センター、りんくう総合医療センター、大阪中央病院)等県外での研修も実施しております。その他、サブスペシャリティ研修を視野に入れた研修も考慮しており、県内外の最先端の専門医療施設での研修も行います。

男女を問わず、研修時もしくは研修後の妊娠・出産・育児と研修が両立できる様に個々の事情に応じたバックアップ体制を整えており、結婚やパートナーの転勤等で他府県に異動の時も全面的な支援をお約束いたします。

基幹施設：香川大学医学部附属病院周産期科女性診療科

連携施設：高松赤十字病院・香川県立中央病院・屋島総合病院・四国こどもとおとなの医療センター・小豆島中央病院(小豆郡小豆島町)
厚仁病院(丸亀市)・松山赤十字病院・四国がんセンター(愛媛県松山市)・りんくう総合医療センター(大阪府泉佐野市)
国立循環器病研究センター病院(大阪府吹田市)・札幌東豊病院(北海道札幌市)・大阪中央病院

● 研修に関する行事 ●

基幹施設：教授回診、症例検討会、周産期カンファレンス、臨床検討会、抄読会、放射線治療カンファレンス(隔週)
CTGカンファレンス(隔週)、病理カンファレンス(隔月)

連携施設：各施設ごとに、カンファレンス・症例検討会、回診、手術、外来診療等が設定されています。

学術集会での発表支援・指導

学術論文の発表支援・指導

● 取得できる専門医資格および技能 ●

● 取得可能な専門医資格：産科婦人科専門医

● 研修終了後に取得を目指す：周産期(母体・胎児)専門医、超音波専門医、婦人科腫瘍専門医、臨床遺伝専門医
サブスペシャリティ領域 女性医学専門医、内視鏡手術技術認定医、等

● 取得可能な技能

- ① 産科 - 正常妊娠・正常分娩の取り扱い、ハイリスク妊娠管理、ハイリスク分娩管理(帝王切開術、鉗子遂娩術、吸引分娩、骨盤位分娩)、その他の産科手術(子宮頸管縫縮術等)、分娩後出血の管理
- ② 婦人科腫瘍 - 良性腫瘍手術、悪性腫瘍手術、周期管理、悪性腫瘍に対する集学的治療
- ③ 女性医学 - 思春期外来、更年期症候群の治療、性器下垂手術、婦人科領域感染症の治療、月経困難症・月経異常の診断と治療、避妊診療
- ④ 不妊・内分泌 - 不妊症の診断と治療、排卵誘発法



外科 プログラム

目的と特徴

- ①専攻医が医師として必要な診療能力を習得すること
- ②専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- ③専攻医としての知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる専門医になること
- ④外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- ⑤外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）の専門医取得へ連動すること

プログラムについて

- 外科専門医は初期臨床研修修了後3年(以上)の専門研修で育成され、各年にはそれぞれ医師として求められる基本的診療能力・態度と専門医に求められる知識・技術の達成目標を設定、年度終了時には評価を行い、外科専門医として実力を確実につけられるように配慮します。
- ◆**卒後3年目** :基幹施設(香川大学病院)で研修を行い、上記⑤の各領域をローテートします。
経験症例150例以上(術者30例以上)
- ◆**卒後4・5年目** :連携施設(県内外21施設)のいずれかに所属し研修を行います。
経験症例350例以上/2年間(術者120例以上/2年間)
- ◆**卒後6年目以降**:原則として香川大学病院で研修し、不足症例があれば各領域で補填します。
- 本プログラム施設群の年間NCD登録数は22,965例で、専門研修指導医は201名であり、本年度の募集専攻医数は9名です。
- 大学病院では稀少疾患・治療困難例を、連携施設ではCommon diseaseや地域医療を経験でき、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能です。
- 大学病院では、外傷などの緊急疾患を経験し、Acute Care Surgeryに関する研修を行うことができます。
- サブスペシャリティ領域専門研修**は、外科専門研修の必要症例数を満たしたうえで、希望領域の症例を多く経験できるよう配慮します。
- 大学院コース**では大学院に進学し、臨床研究または基礎研究を開始します。

*なお、本プログラムの詳細は香川大学医学部附属病院 医師キャリア支援センターHP
<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~isikyaria/>をご参照ください(今後随時更新の予定)。



連携施設一覧

- | | | |
|------------|--------------------|------------------------|
| 1 香川県立中央病院 | 8 さぬき市民病院 | 15 神鋼記念病院[兵庫県] |
| 2 高松赤十字病院 | 9 四国こどもとおとなの医療センター | 16 加古川中央市民病院[兵庫県] |
| 3 三豊総合病院 | 10 屋島総合病院 | 17 国立がん研究センター東病院[千葉県] |
| 4 KKR高松病院 | 11 滝宮総合病院 | 18 総合病院聖隷三方原病院[静岡県] |
| 5 坂出市立病院 | 12 香川県立白鳥病院 | 19 国立がん研究センター中央病院[東京都] |
| 6 済生会病院 | 13 香川労災病院 | 20 赤穂市民病院[兵庫県] |
| 7 りつりん病院 | 14 高知医療センター[高知県] | 21 四国中央病院[愛媛県] |

心臓血管外科

生命の根源であるダイナミックな心臓・大血管手術を一緒にしましょう!

● 診療科の紹介 ●

ダイナミックな動きをする生命の根源である心臓および大血管の疾患に対して、手術を中心とした治療をしています。手術はもとより、カテーテル治療や補助人工心臓など急速に進化する治療を、内科外科の垣根なく心臓血管センターとして担当しています。生死に直結する緊急事態も含めて、全身管理に習熟し、医師として充実した日々を送っています。

虚血性心疾患、弁膜症、大血管、重症心不全、先天性心疾患といった多岐にわたる疾患群を対象にしており、重症かつ複雑化する手術と同時に、低侵襲治療を追求しMICS手術として内視鏡下手術や経カテーテル治療、さらに補助人工心臓なども扱っています。

研修は、大学にとどまらず、日本で最も症例数が豊富な東京の榊原記念病院や、当科OBが副院長を務める岡山の榊原病院をはじめとした全国有数の施設での研修や、海外での研修も可能です。

● 研修に関する行事 ●

毎朝夕の回診、担当患者の手術・周術期管理、循環器内科合同カンファレンス、麻酔科術前カンファレンス、ウェットラボ、学会参加、論文作成

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 外科専門医 ● 心臓血管外科専門医 ● 循環器専門医
- スtentグラフト実施医 ● TAVR実施医



消化器外科

“外科専門医”へ最短・直結の研修ができる! 臨床に、学術に、充実の専攻医ライフを約束します。

● 診療科の紹介 ●

実質臓器(肝・胆道・脾)ならびに消化管(上部・下部消化管)の疾患に対して、手術を軸とした高度で安全性の高い診療を行っています。消化器外科指定修練施設・肝胆脾外科高度技能A施設として認定を受けており、2024年の全手術症例数は480例でした。

- ① 豊富な肝胆脾高難度手術: 2024年は75例
- ② 鏡視下手術を積極的に導入: 食道手術ではほぼ全例、胃手術では半数以上、大腸手術では8割近く、肝臓や脾臓の手術も鏡視下手術が増加
- ③ ロボット手術: 直腸癌、結腸癌、食道癌、胃癌、脾腫瘍に対してDaVinciを用いた手術
- ④ 脳死脾臓移植: 四国で唯一の実施施設(過去12例に実施)
- ⑤ 癌診療の中心的診療科: 治療困難な高度進行癌に対しても、腫瘍センター・消化器内科・放射線治療科と協力した集学的治療で極めて良好な成績
- ⑥ 緊急手術: 年間101例

若手医師はバランスの良い消化器外科診療を経験しスピーディーに成長しています。最短で6年目に「外科専門医」を取得、その後は以下の各種資格を取得できるよう上級医が丁寧に指導します。県内外に多くの関連施設を有し、国内外留学できる施設も豊富です。

● 研修に関する行事 ●

カンファレンス、担当患者の手術・周術期管理、学会参加、論文作成、縫合練習、腹腔鏡手術アニマルラボ、ドライラボ。その他、市内では親睦会なども頻回。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

「外科専門医」→「消化器外科専門医」「消化器病専門医」「内視鏡外科技術認定医」「肝胆脾外科高度技能専門医」「Acute Care Surgery認定外科医」など資格取得に必要な手術や処置の技術



呼吸器外科

究極の低侵襲手術を目指して

● 診療科の紹介 ●

我々は「心と身体に優しい外科医療の実践」を目標に臨床に取り組んでいます。呼吸器外科では肺癌を中心に転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、胸壁腫瘍など胸部の悪性疾患および救急疾患の診療にあたっています。肺癌は本邦がん死の第1位でさらに増加傾向で、その診療の重要性は益々高くなっています。早期肺癌に対しては高度な技術を用いて根治性を担保しつつ呼吸機能温存が可能な低侵襲手術として、胸腔鏡下またはロボット支援下に全ての区域または亜区域に対する肺区域切除を行っています。これらの技術は転移性肺腫瘍でも有用です。また、進行肺癌に対しては患者さんの心に寄り添いながら根治をあきらめない姿勢で臨み拡大手術も積極的に行っております。縦隔腫瘍でも低侵襲手術と拡大手術に取り組んでいます。

● 研修に関する行事 ●

月曜：病棟業務、呼吸器Cancer Board(呼吸器外科、呼吸器内科、放射線治療科、放射線診断科参加)

火曜：手術

水曜：術前、術後カンファレンス、教授回診、病棟業務

木曜：手術

金曜：病棟業務



● 取得できる専門医資格および技能 ●

● 卒後6年外科専門医 ● 卒後8年呼吸器外科専門医

呼吸器外科手術全般で適切な症例を指導者の指導のもと習得してもらいます。

専門医取得後にはロボット支援手術の技術も習得可能です。

乳腺内分泌外科

増加する乳癌患者、足りない乳腺専門医

● 診療科の紹介 ●

乳腺内分泌外科では主に乳腺疾患、特に乳癌に対する診断・治療を行っています。乳癌患者数の増加に伴い、当科の手術件数も増加しています。ステージとサブタイプ、患者さんの個々の背景に応じて、手術療法、薬物療法、放射線療法を適切に組み合わせ初期治療計画を立てます。乳房再建を希望する方は形成外科と連携して対応しています。また、遺伝性乳癌へは臨床遺伝ゲノム診療科、認定遺伝カウンセラーと連携して診療にあたっています。(月)(水)(金)の午前が外来、(火)が手術です。

● 研修に関する行事 ●

◎症例検討カンファレンス 週1-2回

◎多職種カンファレンス 月2回

◎遺伝カンファレンス 月1回

◎英語論文抄読回 月1回



● 取得できる専門医資格および技能 ●

● 機構認定 外科専門医 ● 機構認定 乳腺外科専門医

● 乳癌学会 乳腺認定医 ● 乳癌学会 乳腺専門医

● 検診マンモグラフィ読影医師 ● 乳がん検診超音波検査実施・判定医師

● がん治療認定医 ● 遺伝性腫瘍専門医

小児外科

こどもたちの笑顔と未来のために

● 診療科の紹介 ●

小児外科は、こどもの外科的な病気を診療し、必要があれば手術も行う診療科です。こどもの代表的な病気である虫垂炎や鼠径ヘルニアをはじめ、生まれつきの様々な異常、小児がん、けがなど、こども達の外科疾患の大半を担当します。成長・発達過程にある小児に対するきめ細かい診療を行っており、個々の患児にあわせたオーダーメイドの診療を心がけ、機能を重視した治療に取り組んでいます。

● 研修に関する行事 ●

〈定期カンファレンス(毎週)〉

画像カンファレンス、術前・術後症例カンファレンス、医局抄読会
周産期カンファレンス(産婦人科、新生児科と合同)

〈不定期カンファレンス〉

症例検討会(小児科また関連科と合同)

Tumor Board(小児科、放射線科など関係各科と合同)

香川県小児外科カンファレンス(四国こどもとおとなの医療センター、高松赤十字病院と合同)

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本小児外科学会専門医
- 日本外科学会専門医
- 日本内視鏡外科学技術認定医
- 日本周産期・新生児医学会認定外科医
- 日本臨床栄養学会認定医
- 日本小児血液・がん学会認定外科医
- 日本がん治療認定医



〔 充実の研修設備 〕



内視鏡支援ロボット「ダ・ヴィンチ」対応手術室



ハイブリッド手術室



MRIナビゲーション手術



CCU

整形外科

すべての年齢層の脊椎・骨関節疾患が対象になるため、患者数が極めて多く、社会的ニーズの高い診療科です。

● 診療科の紹介 ●

整形外科は運動器を構成する全ての組織と器官の疾病・外傷を対象とし、診療を行う診療科ですが、病態解明と治療法開発に関する研究にも携わっています。取り扱う領域は脊椎・脊髄、骨盤、四肢と広範囲で、全ての年齢層が対象になりますので、最も社会的ニーズの高い診療科と言っても過言ではありません。高齢化社会の加速、スポーツ障害、外傷の増加、労働災害や交通事故の増加に伴って需要は一層高まっています。運動機能を改善し、高いQOLを求める手助けを行っている診療科なので、医療従事者としてのやりがいや満足度も高く、明るくて前向きな雰囲気にあふれています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

整形外科医は外傷性疾患の治療だけではなく、加齢、スポーツ、リウマチをはじめとする全身性疾患、腫瘍性疾患、脊椎疾患などあらゆる運動器疾患に対応できることが求められます。運動器疾患に対する科学的知識と深い洞察力を身につけ、人間性豊かで高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する整形外科医学の基礎および臨床の新しい情報探知能力と、実践で応用できる幅広い臨床能力を身につける必要があります。多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヵ月の研修を1単位とする単位制をとり、カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得する修練プロセスで研修します。本プログラムの連携施設は15施設(香川県立白鳥病院、さぬき市民病院、香川県済生会病院、りつりん病院、坂出市立病院、高松市立みんなの病院、高松赤十字病院、小豆島中央病院、高松医療センター、広瀬病院、キナシ大林病院、オサカ病院、四国こどもとおとなの医療センター、田中整形外科病院、岩崎病院)です。

● 研修に関する行事 ●

- 手術症例全体検討会(火曜日8時～、金曜日8時～)
- 診療班別症例検討会(月曜日:腫瘍、関節外科、手外科 水曜日:脊椎外科)
- 手術日(月曜日、水曜日、木曜日)
- 総回診(金曜日8時30分～)
- 論文抄読会(火曜日の手術症例全体検討会后)
- 卒後研修セミナー(年4回)

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本整形外科学会専門医



形成外科・美容外科

形成手術に関して世界でも最先端を行く技術を開発しています。

● 診療科の紹介 ●

香川大学形成外科・美容外科は、全国の国立大学の中で、もっとも早期に設立された講座の一つです。当科における診療内容は多岐にわたり、頭頸部や乳がんを切除した後の再建・生まれつきの変形を修正する手術・熱傷や顔面のケガなどの治療・美容外科など、およそ体の形を整えるためのほとんどの治療技術を習得することができます。また、レーザーによるアザやシミなどの治療も数多く行っております。

当科の特長は、あばら骨や乳房など胸部の変形に特に力を入れている点で、この領域においては全国に数ある形成外科の中でもトップです。このため周辺地域からのみでなく、関西地方を中心に全国から患者さんが受診されます。また当科は、糖尿病患者が多いという香川県の地域的な特性にかんがみ、糖尿病性血管障害に起因する下肢病変の治療にも特に力をいれています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

香川大学病院形成外科を基幹施設として香川県立中央病院・さぬき市民病院・高松赤十字病院・まるがめ医療センターなどで、腫瘍切除後の再建・先天奇形の治療・熱傷や外傷の治療など、基本的な形成外科診療に関する研修を行います。他に手の手術の多い施設や、当教室の先輩が開業している美容外科クリニックで研修する機会もプログラムに含まれており、手の外科専門医や美容外科専門医を取得することもできます。学術的な研究を行う環境も整っており、血流を有する脂肪組織を作成するための組織工学研究や、手術を行うとどのような結果が得られるのかを予測するコンピューターシミュレーションの分野においてトップクラスの研究を行っています。

● 研修に関する行事 ●

教授回診・術前術後カンファレンス・抄読会・各種学会への参加・海外施設の見学

● 取得できる専門医資格および技能 ●

●形成外科専門医(基本診療科) ●美容外科専門医 ●レーザー専門医 ●創傷外科専門医 ●頭蓋顎顔面外科専門医を取得することができます。



泌尿器・副腎・腎移植外科

われわれはいい医師、いい泌尿器科医の育成に全力を注ぎます。本気です。

● 診療科の紹介 ●

香川大学医学部泌尿器科(附属病院泌尿器・副腎・腎移植外科)では、泌尿器科がん、腎臓移植などさまざまな領域で本邦トップクラスの医療を行っています。特に泌尿器科がんでは放射線治療科、腫瘍内科などとの協力のもと、大学病院ならではの総合力を発揮して質の高い集学的治療を行っています。また、多くの医師主導型臨床試験や新薬開発試験にも積極的に参加しており、最新の知識や技術を習得することができます。2003年から開始した腎移植は隣腎同時移植を含めるとすでに200例以上を施行しています。さらに四国で唯一の隣腎同時移植の実施可能施設として、重要な役割を担っております。

われわれは、「独り立ちできる泌尿器科医」になるための教育システムを持っています。キャリアアップの様々な段階でいろいろな選択肢を提示し、可能性を広げる教育を実践しています。懇切丁寧な指導がモットーです。

バランスのいい優れた臨床医や研究者になるには初期教育が非常に重要です。是非一緒に切磋琢磨しながら、ともに良医を目指しましょう!お待ちしております。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

我々の専門研修プログラムでは、基幹施設である香川大学医学部附属病院やその関連施設において高度な医療に携わり本邦の標準治療や先進的な医療を経験し学ぶとともに、地域医療を担う連携病院での研修を経て香川県の医療事情を理解し、将来は泌尿器科専門医として香川県全域を支える人材の育成を行うことを目的としています。また、泌尿器科におけるサブスペシャリティ領域(透析・ロボット支援手術・小児泌尿器科・女性泌尿器科など)の研修も考慮して専門性の高い研修施設(川島病院・神戸市立医療センター中央市民病院・倉敷中央病院など)とも専門研修施設群を構成する事で、地域医療と専門医療の両面へ配慮されたバランスのよい優れた泌尿器科専門医の育成を行うプログラムとなっています。

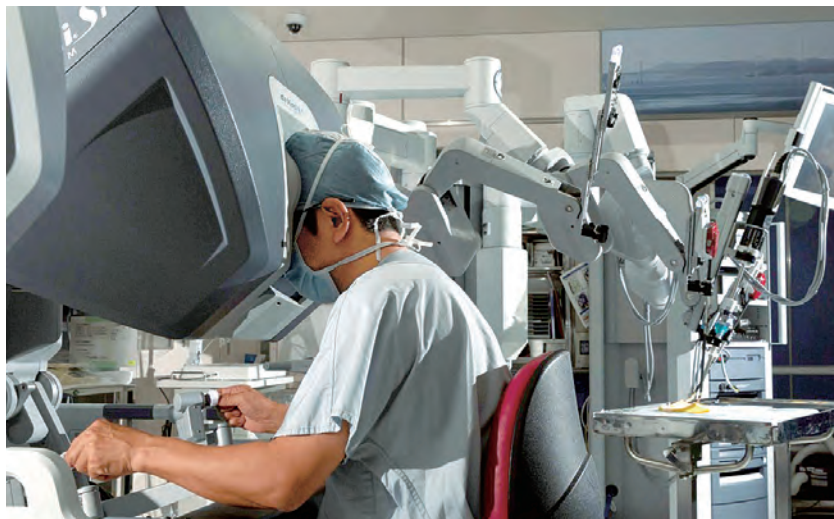
連携施設：坂出市立病院、KKR高松病院、香川県済生会病院、三豊総合病院、滝宮総合病院、香川労災病院、香川県立中央病院、香川県立白鳥病院、キナシ大林病院、小豆島中央病院、川島病院、水島協同病院、倉敷中央病院、姫路医療センター、京都医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、関西医科大学附属病院、兵庫医科大学病院

● 研修に関する行事 ●

教授・回診(火・金)、手術(月・水)、症例カンファレンス(火・金)、腎移植カンファレンス(月1回)、病理カンファレンス(月1回)
手術ビデオカンファレンス(月)など

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本泌尿器科学会専門医 ● 日本泌尿器科学会指導医 ● 日本泌尿器内視鏡学会及び日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 ● 日本移植学会移植認定医 ● ロボット手術認定医 ● 泌尿器ロボット支援手術プロクター
- 日本透析医学会専門医 ● 日本性感染症学会認定医など



脳神経外科

目標とする医師像に向かって、効率よくスキルアップ、ステップアップすることができます。

● 診療科の紹介 ●

脳神経外科診療の対象は、脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷、機能的疾患、小児疾患、脊髄・脊椎・末梢神経疾患など多岐にわたります。香川大学脳神経外科では、術中MRIやハイブリッド手術室、ナビゲーションシステムや神経モニタリング、神経内視鏡などを用いて安全かつ低侵襲な手術をめざしています。脳卒中や頭部外傷などの救急疾患に対しては救命救急センターと協力して治療を行っています。脳卒中に対する最先端治療である血管内手術も積極的に行っており、全国でも有数の血管内手術施行施設となっています。最新の核種を用いたPET検査では、脳腫瘍の診断のみならず、脳神経の機能的評価など幅広く行っています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

当施設の専門研修プログラムでは、脳神経外科専門医を目指して附属病院脳神経外科および救命救急センター、さらに連携・関連施設において数多くの症例を経験することで、全身的管理と脳神経外科疾患の的確な診断・検査、基本的脳神経外科手術を修得します。これと並行して研究、学会発表、論文作成も行います。脳神経外科専門医取得後は、細分化した専門医の取得や、大学院に属し学位の取得も可能です。また、海外留学や他施設への国内留学も積極的に行っています。

連携施設：高松赤十字病院、三豊総合病院、おさか脳神経外科病院、片木脳神経外科

関連施設：香川県立中央病院、香川労災病院、四国こどもとおとなの医療センター、さぬき市民病院、滝宮総合病院、りつりん病院、岡山大学医学部附属病院、岡村一心堂病院、野市中央病院、国立病院機構岩国医療センター

● 研修に関する行事 ●

手術：(火・木)、血管内手術・血管撮影：(火・木・金)、症例カンファレンス・回診(月・水・金)

脳腫瘍病理カンファレンス、内分泌カンファレンス、脳神経内科・脳神経外科合同カンファレンス

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本脳神経外科学会専門医 ● 日本脳卒中学会専門医 ● 日本脳神経血管内治療学会専門医 ● 日本救急医学会救急科専門医
- 日本がん治療認定医 ● 日本神経内視鏡学会技術認定医 ● 日本脊髄外科学会認定医 ● 日本機能的定位脳手術技術認定医
- 日本小児神経外科学会認定医



眼科

臨床経験を積むには、全国的にも手術件数の多い当院は最適な研修施設です。

● 診療科の紹介 ●

香川大学眼科では、県内だけでなく、近隣県からも紹介患者があり、年間手術件数は内眼手術1,500件、外眼手術150件、レーザー手術350件、硝子体注射数は5,000件と、眼科専門研修に必要かつ十分な症例数・手術件数を有しています。主に網膜硝子体・ぶどう膜グループと緑内障グループにわかれており、角結膜、白内障、弱視、斜視、神経眼科、眼窩、眼付属器、他科診療連携については各専門領域の責任者が指導医となり、診断、治療の考え方や手技の指導にあたっています。院内には周産期母子医療センター、がんセンター等も備わっており、他科との連携委員会を中心に、あらゆる全身疾患に関わる眼症状も研修可能となっています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

香川大学眼科専門研修プログラムでは、専門研修基幹施設である当院と研修施設において、それぞれの特徴を活かした眼科研修を行い、定められた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。香川大学の社会人大学院に進学し、診療・研修を行いながら研究を行うことも可能です。専攻医の希望になるべく沿ったプログラムを構築し、いずれのコースを選んでも最終的に研修到達目標に達することができるようにローテーションを調整し、また、専攻医間で格差がつかないような工夫もしていきます。

連携施設：三豊総合病院、白井病院、香川県済生会病院、坂出市立病院、屋島総合病院、リつりん病院、高松赤十字病院、香川県立中央病院、

四国こどもととなの医療センター、倉敷中央病院、大阪赤十字病院

関連病院：小豆島中央病院、さぬき市民病院

● 研修に関する行事 ●

病棟・外来診察、手術、抄読会、カンファレンス（術前・症例カンファ、他施設との合同カンファ等）、研修医講義（院内&院外）、教授回診、ウェットラボ（豚眼を用いた手術基本手技の習得）、など

◎病院主催の講習会（医療安全、感染対策、医療倫理）に規定数出席

◎月に数回の宅直業務

◎7月～10月 1週間の夏休み ◎12月～3月 1週間の冬休み

◎年に数回の学術集会、懇親会

● 取得できる専門医資格および技能 ●

研修プログラムの到達目標である専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性、社会性を身につけ、眼科専門医を取得することを目標とします。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科

日常のコモンの疾患から最先端の治療まで:研修は「思いのほか 広くて深い」

● 診療科の紹介 ●

「人生100年時代」といわれる中、健康に有意義な人生を送るためにはQOLに直結した聴覚・嗅覚・味覚といった感覚や、嚥下・発声といった必須の機能を守ることは極めて重要です。耳科学、鼻科学、咽喉頭学、頭頸部外科学の各分野での最先端な外科医を目指すもよし、アレルギーの診療、感覚器のリハビリや予防を実践する内科的な専門医になるもよし、また、耳鼻咽喉科は新生児から100歳超の高齢者までまさにゆりかごから墓場までの幅広い年齢層を対象にしており、小児への診療に携わりたい人も、高齢者に寄り添った緩和や終末期などの診療も経験できる、将来幅広い医師としてのキャリア形成を考えている人にも親和性の高い、柔軟性のある診療科です。

都市部の病院には症例数では及びませんが、様々な疾患を経験でき、専攻医の数も限定的な分、ひとり当たりの症例数はむしろ豊富で、実力の伴った専門医になれることを保障します。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

「うどん県耳鼻咽喉科専門研修プログラム」では、基幹病院基幹研修施設である香川大学病院を必須選択として、A病院群（香川県立中央病院、高松赤十字病院）、B病院群（坂出市立病院、高松市立みんなの病院、屋島総合病院、香川労災病院、小豆島中央病院、三豊総合病院）、関連施設（さぬき市民病院）の8関連研修施設において、専攻医の希望も勘案してA病院群、B病院群、関連施設から選択し、それぞれの特徴を生かした耳鼻咽喉科研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験する。基幹研修施設では専門外来を設置しており（腫瘍、鼻、耳、幼児難聴、音声・嚥下障害、めまい）、偏りのない医療を学ぶ事ができる。地域枠医師でも義務を果たしながら専門医の取得に支障をきたすことはありません。

● 研修に関する行事 ●

総回診、腫瘍回診、術前・術後カンファレンス、各専門領域カンファレンス（耳・鼻・音声嚥下）、Tumor Board
4年間の研修中:学会発表-3回 論文執筆・公表-1編（筆頭著者）

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本専門医機構認定耳鼻咽喉科専門医 ● 頭頸部外科学会頭頸部がん専門医 ● 気管食道科専門医 ● 日本アレルギー学会専門医
- がん治療認定医機構がん治療認定医 ● めまい平衡医学会認定専門会員 ● めまい相談医 ● 補聴器相談医 ● 嚥下相談医
- 耳科手術指導医 ● 鼻科手術指導医 ● ロボット支援手術認定資格 ● アルミノックス治療施行医資格



放射線診断科

放射線診断専門医の必要性・重要性が一層高まっています。

● 診療科の紹介 ●

急速な進歩を遂げている現代医療の中でも、放射線医学・診療における技術革新には目を見張るものがあります。その一方で、医療を評価する社会の目は年々厳しさを増しています。このような背景から、最先端の技術を使いこなし、様々な診療科・診療領域に横断的に関わる専門家として、放射線診断専門医の必要性・重要性が一層高まっています。画像診断は、病名診断のみならず機能評価や治療効果判定にも用いられ、医療の画像への依存度はどんどん大きくなっています。多くの画像情報から適切な診断を導くには、専門のトレーニングを受けた医師による読影が不可欠です。また様々な検査を使いこなすために、検査の交通整理をするような医師が必要です。このような役割を担うのが放射線診断専門医で、今後ますます需要が高まっていくと思われます。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

連携施設 高松赤十字病院、香川労災病院、四国こどもととなの医療センター、滝宮総合病院

放射線診断専門医取得までの研修プログラム

初期臨床研修 2年間



基幹施設・連携施設での
画像診断・核医学・IVR・放射線治療の研修 3年間



放射線科専門医試験



画像診断・核医学・IVRの高度な研修2年間



放射線診断専門医試験



放射線診断専門医(画像診断・核医学・IVR)



● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 放射線科専門医 ●放射線診断専門医
- 核医学専門医 ●IVR専門医 ●PET核医学認定医 ●マンモグラフィ読影認定医 ●第1種放射線取扱主任者など

放射線治療科

放射線治療は「がんを切らずに治す」重要な選択肢のひとつです。

● 診療科の紹介 ●

放射線治療は、手術や薬物療法とともに、がん集学的治療の中で重要な役割を果たし、根治と緩和の両方に貢献できる治療です。近年、機器の高精度化により、治療成績の向上と副作用の軽減が達成され、多くのがんの標準治療のひとつとして推奨されています。一方、極めて不足している「放射線治療専門医」を増やすことは緊急の課題とされており、がん対策基本法に基づいて、国策として育成を図る施策が講じられています。当科では2014年に高精度リニアックが稼働し、IMRT（強度変調放射線治療）を前立腺癌や頭頸部癌だけでなく、神経膠腫や婦人科癌に対しても積極的に行っています。2022年に高精度リニアック2台体制となり、転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療を行えるようになりました。また、肺癌のみならず、腎癌に対しても定位照射を提供する等、適応拡大に努めています。なお、高精度治療だけでなく、がん集学的治療の一環として、幅広い領域のがん治療を、各診療科と緊密に連携して行っています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

「香川大学医学部附属病院 放射線科専門研修プログラム」の基幹施設を放射線診断科と協力して担っています。研修コースには、臨床医としての研修に重点をおくもの、専門医取得と博士号取得を同時に目指すもの等が設定されており、希望に応じた3年の研修を経て「放射線科専門医」を取得できます。

その後は、さらに2年のサブスペシャルティ研修を経て「放射線治療専門医」を取得できます。

● 研修に関する行事 ●

当科におけるカンファレンス、関連診療科との合同カンファレンスやカンサーボード等で、消化器癌・頭頸部癌・肺癌・婦人科癌等の疾患の病態から治療までの過程を学習することができます。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

●放射線科専門医 ●放射線治療専門医



麻酔・ペインクリニック科

きめ細かい指導体制を提供し、知識と技術を備えた麻酔科専門医を育てます！

● 診療科の紹介 ●

麻酔科専門医は、患者の全身状態を良好に維持・管理する全身管理のスペシャリストです。当科の診療は、麻酔・周術期医学、集中治療医学、疼痛医学、緩和ケア、院内救急措置対応など、広汎多岐にわたります。関連各科との緊密な連携や、緻密な周術期管理に関して重要な役割を果たしており、今後一層の充実が求められています。

当科は、スタッフ一同みな指導熱心で、きめ細かい指導を提供しています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

本プログラムはスペシャリストとしての麻酔科医を育成するプログラムです。豊富な症例を有し、ライフスタイルやキャリアパスに沿った研修体制を提供しており、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック等のサブスペシャリティの資格取得も可能です。専門研修基幹施設である香川大学医学部附属病院をはじめ、高松赤十字病院、坂出市立病院、KKR高松病院、香川県済生会病院、滝宮総合病院、米盛病院、兵庫県立こども病院、国立病院機構四国こどもととなの医療センター、香川県立中央病院、香川労災病院、さぬき市民病院などの関連病院で、研修を行います。連携施設とともに、専攻医のキャリアプランに合わせた研修体制を構築しています。

● 研修に関する行事 ●

毎朝7時40分から症例カンファレンスや抄読会、症例検討会を行っています。

専攻医を対象に中心静脈穿刺や神経ブロックなどの技術習得のためのハンズオンセミナーを開催しています。

また、学会発表、論文作成を目標として臨床研究指導を行っています。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 麻酔科標榜医(厚労省認定)
- 麻酔科専門医(専門医機構認定)
- 麻酔科認定医
- 麻酔科指導医
- 集中治療専門医
- ペインクリニック専門医
- 心臓血管麻酔専門医
- 区域麻酔認定医・指導医
- 小児麻酔認定医
- 老年麻酔認定医・指導医など



病理診断科

マンツーマン指導による病理専門医育成

● 診療科の紹介 ●

病理診断科では指導体制が充実しており、病理診断における幅広い知識や能力を身につけることができます。本プログラムでは、香川大学医学部附属病院病理診断科を基幹型施設とし、連携施設をローテートして病理専門医資格の修得を目指します。組織診断は全臓器を診断し、当科に所属する病理専門医によるマンツーマンでの指導が受けられます。細胞診専門医修得についても同様です。病理解剖は院内症例を含め県下複数の関連病院の解剖を担当しており、専門医修得に必要な症例数が確保されています。臨床各科との合同カンファレンス、論文や学会発表の機会も多くあり、病理医として成長していくための環境は整っています。本病理専門研修プログラムに是非参加し、知識のみならず技能や態度にも優れたバランス良き病理専門医を目指してください。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

本プログラムでは、香川大学医学部附属病院病理診断科を基幹施設とします。連携施設については以下のように分類します。

連携施設1群：複数の常勤病理専門指導医と豊富な症例を有しており、専攻医が所属し十分な教育を行える施設（高松赤十字病院）

連携施設2群：常勤病理指導医がおり、病理診断の指導が行える施設（高松平和病院、高松市立みんなの病院、四国こどもととなの医療センター、済生会今治病院、回生病院、住友別子病院）

連携施設3群：病理指導医が常勤していない施設（坂出市立病院、KKR高松病院、さぬき市民病院、坂出聖マルチン病院、屋島総合病院、香川県済生会病院、高松医療センター、水島協同病院、滝宮総合病院、小豆島中央病院）

● 研修に関する行事 ●

① 病理組織診断：病理専門指導医の指導の下で病理組織診断の研修を行います。基本的に診断が容易な症例や症例数の多い疾患を1年次に研修し、2年次以降は希少例や難解症例を交えて研修をします。研修中は当該施設病理診断科の業務当番表に組み込まれます。当番には生検診断、手術材料診断、術中迅速診断、手術材料切り出し、細胞診、剖検などがあり、それぞれの研修内容が規定されています。研修中は、当番に当たる上級指導医が交代で指導に当たります。なお、各臨床科と月1～2回のカンファレンスが組まれており、担当症例は専攻医が発表・討論することにより、病態と診断過程を深く理解し、診断から治療にいたる計画作成の理論を学ぶことができます。

② 剖検症例：病理解剖に関しては、研修開始から最初の5例目までは原則として助手として経験します。以降は習熟状況に合わせますが、基本的に主執刀医として剖検をしていただき、切り出しから診断、CPCでの発表まで一連の研修をしていただきます。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

修得できる資格には、病理専門医、細胞診専門医、分子病理専門医、死体解剖資格があります。専門医資格修得後はサブスペシャリティ領域の確立や研究の発展、あるいは指導者としての経験を積み、本人の希望によっては留学（国内外）や3群連携施設の専任病理医となることも可能です。



救命救急センター

蘇生、全身管理に精通し、リサーチのできる救命救急・集中治療医を作る。

● 診療科の紹介 ●

香川大学医学部救命救急センターでは、県下全域で発生した蘇生・全身管理の必要な最重症患者を中心に診療しています。高度な医療設備・技術を備え、24時間体制で最良の医療が提供出来る体制で臨み、特に神経救急領域（頭部外傷・脳卒中など）では本邦トップクラスの集中治療を展開しています。

救命救急センターにおける診療体制は常にスタッフ医師、救急専攻医、さらには初期臨床研修医を加えたチームでの診療を行い、初期研修医の救急医学教育の一翼も担っています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

専門研修プログラムでは、ERでの蘇生や重症患者（心停止、敗血症、外傷、等）における全身管理のプロを育てることを目標としています。

ICU/病棟では主治医として救命救急疾患を初療から決定的治療の完結、その後の全身管理を経て転科・転院まで丁寧に患者を診て考えていくことを重視しています。専攻医であっても上級医のサポートを得つつ、治療の順序・内容など方向性のdecisionを行います。当科の研修で世界標準の治療プロトコルを身につけ、的確・迅速に決定的治療を行う力をつけることができます。

また、2022年度より香川県にもドクターヘリが就航し、専攻医もフライトドクターとして病院前診療に携わります。

県内主要施設が連携施設になっていますが、県外の連携病院は2024年時点で以下の通りです。

・兵庫県災害医療センター（兵庫県）・TMGあさか医療センター（埼玉県）・聖路加国際病院（東京都）

・りんくう総合医療センター大阪府泉州救命救急センター（大阪府）

連携施設の選択は各専攻医と相談して決定します。ここに載っていない連携施設にも行けますし、連携施設から先に研修開始してもOKです。

double board取得（2領域以上の専門医取得）はどの診療科とでも可能です。希望するsubspecialtyを考えて連携研修施設を考えていきましょう。

● 研修に関する行事 ●

◎毎週の基本的パターン

朝8:00、夕方17:00（土日祝祭日は8:00、18:00）の症例カンファレンス
毎週木曜日12:30のレクチャー、抄読会

◎各種のoff the job training

BLS、ACLS、JPTEC、JATEC、日本DMAT研修、脳波カンファレンス、集中治療セミナーなど

● 取得できる専門医資格および技能 ●

当科での充実した研修で、最短コース（6年目）で救急科専門医、7年目で集中治療専門医が取得できます。その他にも総合内科専門医、脳卒中学会専門医、脳血管内治療専門医、外傷専門医（予定）、IVR専門医（予定）が取得できます。

また、個人の希望に合ったキャリアプランを尊重します。シフト制で個人の予定に合わせた勤務体制を組むことが出来るため、子育て中の女性医師も救命救急の第一線で活躍しています。

double board取得はどの診療科とでも可能で、当科では外科専門医・脳神経外科専門医・麻酔科専門医の取得者がいます。あるいは海外・国内留学も可能です。さらに神経集中治療コース（6、12か月）、学位取得コースも設けています。

具体的には救命救急センターのホームページをご覧ください。

私たちと蘇生・集中治療・外傷のプロを目指しませんか？



内科プログラム担当

内分泌代謝内科
村尾 孝児

TEL.087-891-2230 FAX.087-891-2230
E-mail : muraokoji@kagawa-u.ac.jp

呼吸器内科
金地 伸拓

TEL.087-891-2145 FAX.087-891-2147
E-mail : kanaji.nobuhiro@kagawa-u.ac.jp

抗加齢血管内科
大原 美奈子

TEL.087-891-2150 FAX.087-891-2152
E-mail : ohara.minako.fc@kagawa-u.ac.jp

腫瘍内科
奥山 浩之

TEL.087-891-2081 FAX.087-891-2296
E-mail : oncology-m@kagawa-u.ac.jp

血液内科
門脇 則光

TEL.087-891-2145 FAX.087-891-2147
E-mail : kadowaki.norimitsu@kagawa-u.ac.jp

循環器内科
野間 貴久

TEL.087-891-2150 FAX.087-891-2152
E-mail : noma.takahisa.ps@kagawa-u.ac.jp

消化器内科
谷 丈二

TEL.087-891-2156 FAX.087-891-2158
E-mail : sannai-m@kagawa-u.ac.jp

総合診療科
市来 智子

TEL.087-891-2349 FAX.087-891-5690
E-mail : primary-m@kagawa-u.ac.jp

膠原病・リウマチ内科
土橋 浩章

TEL.087-891-2145 FAX.087-891-2147
E-mail : dobashi.hiroaki@kagawa-u.ac.jp

腎臓内科
祖父江 理

TEL.087-891-2150 FAX.087-891-2152
E-mail : sofue.tadashi@kagawa-u.ac.jp

脳神経内科
川北 梨愛

TEL.087-891-2156 FAX.087-891-2158
E-mail : kawakita.rie.h4@kagawa-u.ac.jp

外科プログラム担当

心臓血管外科
山下 洋一

TEL.087-891-2186 FAX.087-891-2187
E-mail : yamashita.yoichi@kagawa-u.ac.jp

乳腺内分泌外科
阿部 宣子

TEL.087-891-2191 FAX.087-891-2192
E-mail : abe.noriko@kagawa-u.ac.jp

皮膚科
大日 輝記

TEL.087-891-2162 FAX.087-891-2163
E-mail : hifuka-m@kagawa-u.ac.jp

周産期科女性診療科
鶴田 智彦

TEL.087-891-2174 FAX.087-891-2175
E-mail : tsuruta.tomohiko@kagawa-u.ac.jp

泌尿器・副腎・腎移植外科
岡添 誉

TEL.087-891-2202 FAX.087-891-2203
E-mail : uro-m@kagawa-u.ac.jp

耳鼻咽喉科・頭頸部外科
岸野 毅日人

TEL.087-891-2214 FAX.087-891-2215
E-mail : kishino.takehito.dy@kagawa-u.ac.jp

麻酔・ペインクリニック科
納田 早規子

TEL.087-891-2223 FAX.087-891-2224
E-mail : noda.sakiko@kagawa-u.ac.jp

消化器外科
岡野 圭一

TEL.087-891-2438 FAX.087-891-2439
E-mail : okano.keiichi@kagawa-u.ac.jp

小児外科
下野 隆一

TEL.087-891-2181 FAX.087-891-2182
E-mail : shimono.ryuichi@kagawa-u.ac.jp

精神科神経科
野口 勝宏

TEL.087-891-2167 FAX.087-891-2168
E-mail : noguchi.katsushi@kagawa-u.ac.jp

整形外科
森 正樹

TEL.087-891-2195 FAX.087-891-2196
E-mail : mori.masaki@kagawa-u.ac.jp

脳神経外科
小川 大輔

TEL.087-891-2207 FAX.087-891-2208
E-mail : ogawa.daisuke@kagawa-u.ac.jp

放射線診断科
山本 由佳

TEL.087-891-2219 FAX.087-891-2220
E-mail : radiol-m@kagawa-u.ac.jp

病理診断科
石川 亮

TEL.087-891-2305 FAX.087-891-2371
E-mail : byoribukagawa-m@kagawa-u.ac.jp

呼吸器外科
矢島 俊樹

TEL.087-891-2191 FAX.087-891-2192
E-mail : yajima.toshiki@kagawa-u.ac.jp

小児科
岩瀬 孝志

TEL.087-891-2171 FAX.087-891-2172
E-mail : iwase.takashi@kagawa-u.ac.jp

形成外科・美容外科
永竿 智久

TEL.087-891-2198 FAX.087-891-2199
E-mail : nagasao.tomohisa@kagawa-u.ac.jp

眼科
山下 彩奈

TEL.087-891-2211 FAX.087-891-2212
E-mail : ganka-m@kagawa-u.ac.jp

放射線治療科
高橋 重雄

TEL.087-891-2413 FAX.087-891-2427
E-mail : takahashi.shigeo@kagawa-u.ac.jp

救命救急センター
黒田 泰弘

TEL.087-891-2392 FAX.087-891-2393
E-mail : kuroda.yasuhiro@kagawa-u.ac.jp

香川大学で Specialistに なろう!!

医師キャリア支援センターが 専門医取得をサポート!

香川大学医学部附属病院の体制

- 臨床教育研修支援部のもとに地域医療教育支援センターと卒後臨床研修センターに加えて医師キャリア支援センターが新設
- 医師キャリア支援センターは専門研修を担当し、各診療科と協力して専門医の養成をサポートします。

地域医療教育
支援センター

卒後臨床研修
センター

医師キャリア
支援センター

初期研修から専門研修までサポート体制を整備

卒後3年目～の専門研修
をしっかりサポート

主な業務 | 専門研修(専門医取得支援)、医師のキャリア形成支援、医師派遣支援

専門研修や病院見学などの問い合わせにも対応します
専門研修の最新情報についても随時HP等で発信します

連絡先 e-mail: isikyaria-m@kagawa-u.ac.jp
HPアドレス <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~isikyaria/>

香川大学専門研修プログラム専攻医(医員)の処遇について

1 専門研修プログラム専攻医の身分

非常勤医師(医員)

2 専門研修プログラム専攻医の手当

- ①手当：日給15,000円(月額約300,000円)
- ②賞与：無
- ③時間外手当：有

3 勤務時間

- ①基本的な勤務時間：月～金 8時30分～17時15分
の週38.75時間勤務

4 休暇

- ①有給休暇：1年次10日
- ②夏季休暇の有無：有(当該年度における休日及び
代休日を除いた、原則として連続する3日の範囲内)
- ③その他の休暇：無給休暇(産前産後休暇、病気休暇等)

5 宿舎

専門研修プログラム専攻医(医員)は、香川大学が所有
している宿舎に入居することができます。

6 社会保険及び労働保険

- ①公的医療保険：健康保険
- ②公的年金保険：厚生年金保険
- ③労働者災害補償保険の有無：有
- ④雇用保険の有無：有

7 健康管理

- ①健康診断：年1回実施
- ②その他：特殊健康診断(該当職種者の場合)、特別
定期健康診断(該当職種者の場合)、臨時健康診断
(必要がある場合)

8 医師賠償責任保険の取り扱い

医師賠償責任保険の加入は、任意の個人加入とする。

9 兼業

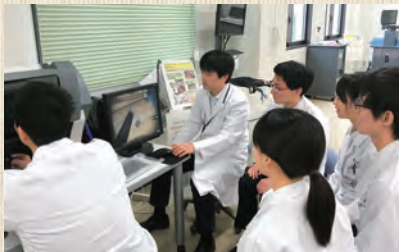
可(専門研修連携施設に在籍期間中は、各病院の待遇
によります。)

※院内保育園あり(いちご保育園)

JMECC講習会(日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会)等、
専門研修に必要な講習会の開催も行います。



スキルスラボラトリーでは、各種シミュレータを完備しスキルアップの応援をしています。



香川大学医学部附属病院の紹介

2011年からの病院再開発で、新病棟、新手術棟などが完成。充実した環境で日々進化する最先端医療を実践し、
社会と地域に貢献できる優れたスペシャリスト育成を目指します。



ヘリポート



院内保育園(いちご保育園)

■JR高松駅より

- ことでんバス 【高松医療センター・大学病院線】「大学病院」約40分
- 電車ことでん ことでん【高松築港駅】徒歩5分→ことでん【長尾線高田駅】22分～26分→
ことでんバス【高松医療センター・大学病院線】「大学病院」4分
- タクシー 約30分

■高松自動車道より

- 徳島方面からお越しの方は 【さぬき三木IC】より車で 約5分
- 高松・坂出方面からお越しの方は 【高松東IC】より 約3分
- 高速バスを利用される方は 三木高速バスストップより徒歩 約15分

SPECIALISTになろう!



香川大学医学部附属病院
医師キャリア支援センター

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1
TEL:087-891-2478 FAX:087-891-2254
MAIL:isikyaria-m@kagawa-u.ac.jp
URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~isikyaria/>



この印刷物は、
環境にやさしい
植物油インキを使用し、
水なし印刷で
印刷しています。

